

平成 27 年度三重大学国際交流事業実施報告書 (学内版)

1. 申請部局

学部・研究科名等：三重大学人文学部

事業担当者の職・氏名：教授 福田和展

内線電話番号：9107

電子メール：fukudakk@human.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称 (20 字以内, 別に副題を付けても良い)

第 2 回実践中国語プログラム高雄師範大学夏期語学研修

3. 事業内容の別 (該当するところにチェックを入れてください。)

教職員, 学生の海外派遣 (学会やシンポジウム等の出席は除く)

海外交流機関等からの教職員, 学生の受け入れ

地域国際化支援

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

(1) 事業概要

実施場所：中華民国台湾 国立高雄師範大学語文教学センター

実施期間：平成 27 年 8 月 8 日～8 月 22 日

参加人数：18 名（人文 4 名、教育 6、医学 4 名、生物資源 3 名、工学 1 名）

引率教員：1 名（人文学部教授 福田和展）

(2) 事業の背景・これまでの実績

本学中国語教育における台湾語学研修の位置づけ。

共通教育中国語分科会が実施している「実践中国語教育」は、中国語を専攻とはしていない、所謂第 2 外国語履修者に対しても、より実践的な中国語運用能力を身につけさせ、学生が本学の各学部を卒業後、身に付けた専門知識をより広い国際社会で生かせるよう、以下の 3 点を柱に実施している。

①. 中国語 I 文法、中国語 I 講読はそれぞれ全クラス統一のテキストの使用、進度の統一を図り、全クラス統一問題による学期末統一試験を行う。

②. 日本中国語検定協会が主催する中国語検定試験の可否を単位認定に導入する。

③. 中国語圏の大学における語学研修「実践中国語プログラム」を実施し、中国語環境の中に実際に身を置くことで、現地力を涵養する。

(3) 事業実施結果

1 募集と事前研修

募集：平成 27 年 4 月 28 日、5 月 21 日昼休みに教養教育 190 番教室にて説明会を開催。平成 27 年 5 月中旬から 5 月末までを募集期間とした。

事前研修：

第 1 回 7 月 1 日 11 限： ①参加者自己紹介②諸連絡事項③台湾基礎知識（台湾の言語状況、歴史）

第 2 回 7 月 15 日：台湾基礎知識（政治、社会）

第 3 回 7 月 22 日：フィールドスタディーについての説明、訪問先基礎知識（研修期間中に実施する調査旅行で訪問する地域の歴史、社会、文化について説明し、専門分野や関心のある角度から調べさせる）

第 4 回 7 月 29 日：フィールドスタディー自薦調査決定発表。結団式（自ら選択したテーマについて発表させると同時に、今回の研修参加に対する抱負や、問題意識を発表させた。

2 研修期間の授業

授業は土日を除いた平日、昼休みを挟んで午前 9 時から午後 4:30 まで行われた。今年度はクラスを初級と中級にわけ、1 年次生もしくは中国語能力が初級レベルと判断された学生は初級クラス、すでに三重大学で中級以上の授業を履修済みの者を中級クラスに配分し授業を行った（文化体験授業は同一クラス）。初級クラスでは、対外漢語教育を専門とする教員が、パワーポイントで示される写真や映像（題材は日常生活や行事、民族文化に関するもの）について、中国語で質疑応答を行うと言った実践的なものであった。学生は

授業が進むにつれ、授業に積極的な態度で臨むようになり、聞く力と話す力の向上が図られた。中級クラス参加者は4名、台湾の社会や暮らし、民族文化について中国語で話し、それについて学生との間で中国語でやり取りをする授業や、日台関係をテーマにした映画を原語で観賞し、中国語で質疑応答するといった授業が行われた。



高雄師範大学



開講式



授業風景

3 研修旅行及びその他行事

研修では本学共通教育1単位以上の学習時間を確保しつつも、台湾の社会や歴史を知るための研修旅行を昨年度同様、8月8日台湾到着日、8月15日(土)、8月16日(日)、8月20日(木)、8月21日、帰国日に、バスをチャーターし以下のような見学ツアーと調査旅行を組んだ。また今回から教育学部日本語教員養成コース、服部明子准教授の協力を得て、同コースからの参加学生6名のため、高雄市内での日本語教育についての見学も実施された。



到着

- ① 8月9日(日) 高雄市内および郊外にある高雄市立歴史博物館(日本時代の高雄市役所)、糖業博物館(日本統治時代の精糖工場)を見学した。公共交通の利用に慣れるため、高雄師範大学好感留学派遣中の学生の援も得て、地下鉄を利用して移動した。しかし、8月8日に台湾を直撃した台風の影響で、糖業博物館は入園できなかつた。



左：糖業博物館 右：高雄市立

歴史博物館

②8月11日(火) 授業終了後：さくら日本語学校夜間クラスを見学した。(日本語教員養成コース学生のみ。)

③8月12日(水) 午後教育学部日本語教員養成コース6名のみ、高雄市郊外の梓南工業区にある日系企業が行っている現地従業員向け日本語教室を見学した。

④8月13日(木) 授業終了後：日本統治時代の教育を受けた老人から、日本統治時代の教育や社会、そして1945年以降の社会について話を聞いた。写真のお二人は義理の兄弟にあたり、写真手前の柯烺栄氏は昭和20年度に九州帝国大に合格するも、戦況の悪化で入学できなかった。



奥：洪火山氏、手前：柯烺栄氏

④8月14日(金) 授業終了後：在高雄日本人会会員で企業のかたがたとの座談会。



在高雄日本人会会員企業との座談会

⑤8月15日(土)：屏東県三地門郷での先住民族パイワン族古老への聞き取りと先住民族文化の学習。



パイワン族古老



陳俄安民族博物館にて

⑥8月16日(日)：台南市にある国立台湾歴史博物館、烏山頭ダムと八田与一記念館見学。その後、鎮安堂(別名飛虎將軍廟)参拝。鎮安堂は、日本統治時代に台南に駐屯していた海軍航空隊の杉浦飛曹長を祭った道教廟。杉浦は1944年、台南上空で米戦闘機との空中戦で墜落、その際、台湾人集落を避けて墜落したため、地元住民から村の守り神として祭られるようになった。



国立台湾歴史博物館



鎮安堂



烏山頭ダム

⑦8月20日(木)午後：高雄市郊外にある日本人慰霊塔、大坪与一の墓を参拝。日本統治時代の在留日本人や高雄市のインフラ整備に功績のあった大坪与一の墓が、地元の人人によって大切に保存されている。紅毛港保安堂（道教廟）見学と信者との交流会。



日本人慰霊碑



大坪与一墓



保安堂

⑧8月21日：自由行動

⑨8月22日帰国

(4) 事業の意義

- ①. 中国語 I 文法、中国語 I 講読はそれぞれ全クラス統一のテキストの使用、進度の統一を図り、全クラス統一問題による学期末統一試験を行う。
- ②. 日本中国語検定協会が主催する中国語検定試験の合否を単位認定に導入する。
- ③. 中国語圏の大学における語学研修「実践中国語プログラム」を実施し、中国語環境の中に実際に身を置くことで、現地力を涵養する。

本語学研修は上記のように、当分科会が実施している実践中国語教育の3つの柱の一つに位置づけられるもので、本学と大学間交流協定のある国立高雄師範大学において、両校交流協定中の覚え書きに基づき実施されるものである。

(5) 事業の発展性

3回目となる今回の実施では、全員が初参加で、全学部からの参加者を得た。また4名が2年次以上の共通教育及び人文学部専門教育の中国語中級以上の履修を終えた者であったため、今回も初級クラスと中・上級クラスの2クラス編成で研修を行なった。

第1回研修に参加し、その後高雄師範大学へ交換留学生として派遣された人文学部の1名が、台湾での修士号取得のため、9月より台湾での再度の留学を始めることとなった。

(6) 中期目標・中期計画における位置づけ

28年度より、本研修は人文学部「海外中国語文化研修」(教養教育国際理解(高雄))

として開放) 2単位として開講されることとなった。回を重ねるごとに、フィールドスタディーや高雄師範大学語文教育センターの授業も充実し、今後は、現在台湾との交流に注力している三重県や企業の協力を得て、インターンシップの要素を加えた形にできればと思っている。

(7) その他

(助成に関する要望事項等)